

令和 5 年 6 月 10 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02086

研究課題名(和文)日本の少女文化におけるアメリカ表象の歴史的意義

研究課題名(英文)A Historical Significance of Representations of America in Japanese Girls' Culture

研究代表者

大串 尚代(Hisayo, Ogushi)

慶應義塾大学・文学部(三田)・教授

研究者番号：70327683

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文):本研究の目的は、日本の少女文化におけるアメリカ文学・文化の受容について、その歴史的背景を明治期に遡り、第二次世界大戦後の民主化政策を経た1970年代までを考察することであった。本研究期間には、アメリカでの調査や国会図書館などで収集した資料に関する調査を経て、日本の少女文化の中にいかにアメリカ表象が取り入れられていたか、少女マンガという媒体がいかに重要な文化装置であったかを論じた。その学術的成果として国内外の媒体での論文発表、また国内外での口頭発表を行った。それらをもとにして2021年には単著『立ちどまらない少女たち - <少女マンガ>的想像力のゆくえ』(松柏社)を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、昨今ソフトパワーとなっている日本のアニメやマンガの中でも、これまでそれほど着目されて来なかった少女マンガを歴史的にたどることにより、その文化的役割について考察したものである。1960年代から90年代の作品を中心に、当時文化の主流とはみなされていなかった少女マンガというジャンルの意義を再考する本研究は、サブカルチャー研究と外国文学研究を交差させ、広い意味での文化研究に資するものと考えられる。

研究成果の概要(英文):The objective of this research project is to trace the lineage of cultural acceptance of American culture within Japanese shojo culture from the Meiji period until the 1970s, during and after the democratization of Japan following World War II. The research aims to demonstrate the extent to which Japanese shojo culture incorporates representations and images of America, thereby highlighting its significance as a cultural device in Japanese history, despite its frequent dismissal as a trivial and fleeting phenomenon. The scholarly outputs of this project comprise academic articles that have been published in both domestic and international media, as well as presentations at both domestic and international conferences. In 2021, a monograph titled "The Unstoppable Girls: The Power of Shojo Manga Imagination" was published as a result of this project.

研究分野：アメリカ文学研究 ジェンダー研究

キーワード：少女文化 少女マンガ アメリカ表象 アメリカ女性文学 文化受容 外国表象 大衆文化 サブカルチャー

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、研究代表者が、2014年4月から2017年3月にかけて科学研究費基盤研究(C)による助成を受けた「アメリカン・モビリティの思想史」での研究において着想された、文化の移動、文化受容に関する研究が背景としてあった。それはすなわち、19世紀アメリカ女性文学と、日本における翻訳文化、それを取り入れた日本の少女文化との間に関係性を見出すものである。研究開始時には、すでに「少女」の研究は日本史、日本文学、社会学、ジェンダー学などの分野で行われており、またアメリカ女性文学研究は米文学の分野で活発に行われていた。本研究を開始するにあたり、先行研究として参考にしたのものとしては、橋本治『花咲く乙女たちのキンピラゴボウ』(1979年)、大塚英二『少女民族学』(1989年)、渡部周子『<少女像>の誕生』(2007年)、今田絵里香『少女』の社会史』(2007年)などである。また、Deborah Shamoon, *Passionate Friendship* (2012)、Christine Yano, *Pink Globalization* (2013)、Sharon Kinsella, *Schoolgirls, Money and Rebellion in Japan* (2014)などの相次ぐ英語圏での日本少女文化研究なども、日本文化への関心の高さが示されていた。

一方で、アメリカ文学分野では、いわゆる「家庭小説」をはじめとした女性文学の研究は20世紀後半から大きな広がりを見せていた。1970年代より本格化してきたアメリカ女性作家研究は、それまで研究対象とは見なされなかった女性作家の作品—その多くが家庭小説や感傷小説とよばれるもの—を研究の俎上にのせてきた。これらの研究は、一見するとエンターテインメント性の高い家庭小説や感傷小説の中に、家父長制の規範におさまらない女性の生き方が示されていることを論じ、当時の女性に与えられた社会規範に従いつつも、テキストの中に抵抗の兆しを読み取ってきた。

このように、日本の少女文化とアメリカを中心とする北米の女性作家の作品については、それぞれに研究が蓄積されてきたことが、本研究の背景にある。

2. 研究の目的

上記の背景を踏まえ、本研究の目的は、日本の少女文学と、アメリカを中心とする北米の女性作家の作品との間に、「翻訳」と通じた文化接続を見出すことにある。日本の少女文化におけるアメリカ文学・文化の受容について、その歴史的背景を明治期に遡り、第二次世界大戦後の民主化政策を経た1970年代まで考察することにあつた。「少女」の概念形成は、すでに日本史・日本文学・社会学・ジェンダー学の側面からの研究がなされているが、本研究においてはそこに明治期の文明開化以降の文化混淆の可能性を検討し、アメリカ文化が果たした役割について注目する。特に19世紀から20世紀にかけて出版されたアメリカ女性文学の日本での翻訳受容に着目することにより、作品内で描かれる性差規範の確立と逸脱が、日本の少女文化においていかなる文学的・文化的表象へと変換されたかを探る。欧米からも注目されるサブカルチャーとしての日本の少女文化が内包する文化移動のダイナミズムを明らかにするものである。

3. 研究の方法

本研究を遂行するにあたり、国内外での資料調査および資料収集を中心に行った。具体的には、国立国会図書館、アメリカ公文書館での資料収集および書籍の入手である。

国立国会図書館では、デジタル化されている明治期の少女雑誌を読み進め、海外を紹介する写真、記事、また翻訳文学などについて調査を行った。雑誌の号数が膨大にあるため、網羅的な調査にまでは至らなかったものの、外国文化の紹介や女子教育に関する記事に注目しながら調査をすすめた。また、国立国会図書館には、多くの少女マンガ雑誌が創刊号から所蔵されており、とくに1960年代の『週刊少女マーガレット』を中心に調査を進めた。アメリカの国立公文書館では、GHQ/SCAPによる占領下の日本における民主化政策を調査した。GHQ/SCAPの下部組織であった民間情報教育局(CIE)による出版許可状況が記された書類を精査し、占領下の日本においてどのような出版物が奨励されたのか、また出版が許可されなかったものはどのような内容なのかについて調査した。

4. 研究成果

本研究の学術的成果として国内外の媒体での論文発表、また国内外での口頭発表および講演を行った。それらをもとにして2021年には単著『立ちどまらない少女たち - <少女マンガ>的想像力のゆくえ』(松柏社)を刊行した。本研究は、昨今ソフトパワーとなっている日本のアニメやマンガの中でも、これまでそれほど注目されて来なかった少女マンガを歴史的にたどることにより、その文化的役割について考察した。1960年代から90年代の少女マンガ作品を中心

に考察した本研究は、作品の発表当時には文化の主流とは必ずしもみなされていなかった少女マンガというジャンルの意義を再考し、サブカルチャー研究と外国文学研究を交差させ、広い意味での文化研究に資するものになったと考える。

本研究は、国内のほか、フランス、中国、ブラジルでの学会において発表がなされ、その学会に参加している世界各国からの研究者と意見交換をすることで、研究をさらに発展させることが可能となった。

また、先述した単著 1 冊、共著 4 冊、論文 6 本（英語論文 2 本、日本語論文 4 本）を発表した。単著『立ちどまらない少女たち - - <少女マンガ> 的想像力のゆくえ』（松柏社）は、第 5 回西脇順三郎学術賞を受賞した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 大串尚代	4. 巻 学会会議書29
2. 論文標題 文学とジェンダー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人文社会科学とジェンダー	6. 最初と最後の頁 25-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisayo Ogushi	4. 巻 -
2. 論文標題 American Literature in Japanese Shoujo Comics	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Oxford Research Encyclopedia of Literature	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串尚代	4. 巻 51
2. 論文標題 ぼんやりと考える 吉本ばなな初期作品と少女マンガ的雰囲気について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 65-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串尚代	4. 巻 79
2. 論文標題 囚われたのは誰か 19世紀白人女性作家とボカホンタスの姉妹たち	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本アメリカ文学会東京支部会報	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大串尚代	4. 巻 113-2
2. 論文標題 Little Lord of Sutpen 's Hundred: Building up a ' Family Plot ' in Absalom, Absalom!	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Geibun Kenkyu	6. 最初と最後の頁 108-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大串尚代	4. 巻 113-3
2. 論文標題 ジャンヌ、遠き存在 - - 『ジャンヌ・ダルクについての個人的回想録』における啓示と意思	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 藝文研究	6. 最初と最後の頁 79-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 大串尚代
2. 発表標題 旅する子どもたちーオーナー、カミンズ、孤児列車
3. 学会等名 日本英文学会関東支部第20回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大串尚代
2. 発表標題 「西へ東へ Fuller, Sedgwick, de Burtonにみるマニフェスト・デスティニー」
3. 学会等名 日本アメリカ文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hisayo Ogushi
2. 発表標題 American Frontier Spirit in Japanese Girls' Comics.
3. 学会等名 12th International Congress of Japanese Studies/ 25th National Meeting of University Professors of Japanese Language, Literature, and Culture (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大串尚代
2. 発表標題 日本生まれのアメリカン・ガール 日本の少女マンガにおけるアメリカ文学の接点
3. 学会等名 北京外国語大学講演会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hisayo Ogushi
2. 発表標題 American Heroines in Japan: American Domestic Novels and the Formation of Japanese Girls Culture
3. 学会等名 Society for the Study of American Women Writers (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大串尚代
2. 発表標題 囚われたのは誰か--キャサリン・マリア・セジウィック『ホープ・レスリー』におけるポカホンタス表象を中心に
3. 学会等名 日本アメリカ文学会東京支部12月例会シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大串尚代
2. 発表標題 「少女マンガとジェンダー」
3. 学会等名 Manga e desdobramentos em pesquisas, Estudos da Diaspora Nipo-brasileira: linguas e culturas em contato (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 大串尚代	4. 発行年 2021年
2. 出版社 松柏社	5. 総ページ数 259
3. 書名 立ちどまらない少女たちー <少女マンガ> 的想像力のゆくえ	

1. 著者名 巽 孝之、宇沢 美子、大串尚代、加藤有佳織、小泉由美子、白川恵子、駒村圭吾、佐藤光重、大和田俊之、常山菜穂子、佐久間みかよ、細野香里、冨塚亮平、奥田暁代、石原剛、久保拓哉、南波克行、秋元孝文、その他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 244
3. 書名 よくわかるアメリカ文化史	

1. 著者名 下河辺 美知子、大串尚代、田浦紘一、石原剛、佐久間みかよ、越智博美、田ノ口正悟、舌津智之、貞廣真紀、白川恵子、巽孝之	4. 発行年 2020年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 312
3. 書名 マニフェスト・デスティニーの時空間	

1. 著者名 下河辺美知子、高瀬祐子、日々野啓、巽孝之、舌津智之、大串尚代、新田啓子、権田健二、板垣真任、伊藤詔子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 344
3. 書名 アメリカン・マインドの音声ー文学・外傷・身体	

1. 著者名 大串尚代	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 255
3. 書名 『ジェンダー×小説 ガイドブック』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------